

科目名 (科目番号)	神経系障害 理学療法評価学 (時間割参照)	教員名	永野 克人・他	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
				授業形態	講義	オフィスアワー	別紙記載	
授業概要	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、頭部外傷、脊髄損傷の症候とそれに伴う障害の各病期や重症度に応じた理学療法の介入について評価および運動療法の実施から日常生活活動、患者・家族指導までを系統的に学習する。							
目的・目標	目的：神経筋疾患の病態、症候、障害、検査・測定、理学療法について理解する。 目標：①神経筋疾患の病態、症候、障害、問題点について理解し説明できる。 ②神経筋疾患の医学的検査および理学療法評価と治療について理解し説明できる。 ③神経筋疾患に対する基本動作および日常生活活動の指導法を理解し説明できる。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	パーキンソン病の理学療法	到達目標:パーキンソン病の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:パーキンソン病の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	2	脊髄小脳変性症の理学療法	到達目標:脊髄小脳変性症の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:脊髄小脳変性症の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	3	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	到達目標:筋萎縮性側索硬化症の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	4	多発性硬化症の理学療法	到達目標:多発性硬化症の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:多発性硬化症の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	5	ギラン・バレー症候群の理学療法	到達目標:ギラン・バレー症候群の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:ギラン・バレー症候群の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	6	頭部外傷の理学療法	到達目標:頭部外傷の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:頭部外傷の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	7	脳腫瘍の理学療法	到達目標:脳腫瘍の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:脳腫瘍の理学療法評価と治療について学ぶ。					
	8	脊髄損傷の理学療法	到達目標:脊髄損傷の疫学、病態、症候、その評価と治療について理解する。 学習内容:脊髄損傷の理学療法評価と治療について学ぶ。					
成績評価の方法・基準	筆記試験100%、ただし、確認テストやレポート課題、演習を行う場合がある。課題および演習等の未提出や内容不十分な場合や講義マナー・ルール違反・迷惑行為等で注意された場合は、「注意1回につき総合点から10～30点減点」する（減点方式）。対面とオンライン共通。							
教科書	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版			監修 奈良 勲 編集 森岡 周 / 阿部 浩明		医学書院		
参考図書	脳卒中治療ガイドライン2021 理学療法評価学 第6版 ベッドサイドの神経の診かた 病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経			日本脳卒中学会 編 松澤正 田崎義明 医療情報科学研究所 編集		協和企画 金原出版 南山堂 メディックメディア		
教員からのメッセージ	講義前に教科書を十分に読み、内容の理解に努めるよう予習し、また、分からないことを明らかにした上で講義に臨むこと。講義中は、書き込みやノート、マーカー、下線をするなど講義中の解説を記録すること。講義後は学習したことをしっかり理解し覚えるまで自主学習として復習すること。分からないことは放置せず図書やオフィスアワー等を活用し、必ず迅速に解決すること。本科目は、病院などで理学療法士として実務経験を有する教員が担当します。							